2011年5月31日

（株）ボナール　代表取締役
若井　とよ子　様

社団法人 日本建築家協会（JIA）
関東甲信越支部　　支部長　上浪　寛
同 保存問題委員会　委員長　左　知子

本郷館保存に関する要望書

拝啓　　時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

貴社におかれましては、日頃より文化の継承に理解をお示しになっておられることに深く敬意を表します。

当協会は、建築設計･監理を専業とする建築家の日本で唯一の職能団体として、建築物を創るばかりでなく、優れた建築物を保存活用し、後世に文化として継承することも創造行為の一つであるとの認識の下、望ましい建築･都市環境の形成に向け、様々な活動をしているところです。

ご高承のように文京区本郷は東京大学の門前に位置することから、東京大学の学生をはじめ多くの学生相手の下宿屋が建ち並ぶ学生街として固有の歴史とともに時を経てきたまちです。そのようなまちにおいて貴社所有の本郷館は1905（明治38）年建築され、東京女子高等師範学校（現・お茶の水女子大学）寄宿舎時期を経て現在まで下宿屋として使われてきた経緯から、本郷の歴史そのものと言っても過言ではありません。

外壁下見板張り木造三階建てのこの建物は100余年にわたり風雪に耐え、関東大震災、先の戦災といった災害を経てもなお威風堂々と建ち続け、木造建築の可能性を立証することができる貴重な建造物だともいえます。

また、賄い付、共同炊事場付といった日本独自に発展して来た共同住宅の一つの形である下宿屋建築は、近年社会事情の変化により減り続け、残っている中でも3階建て延べ面積400坪超、計70室あまりの規模の下宿屋建築は他に類を見ず、希少価値の高さが伺えます。 2007年4月26日付け朝日新聞夕刊によりますと、「規模や形態の点で非常に希少性が高く、国の重要文化財になる可能性もある。」との元文化庁文化財調査官の発言もあるほどです。

本郷において、朝暘館や鳳明館といった現在旅館となっている旧下宿屋や、かつての学生寮を再生した求道学舎といった建造物と共に、当地の歴史的景観に寄与している本郷館は、現在もまちの歴史と呼応する重要な建物となっており、また長い歴史の中ここに滞在した数多の著名人は枚挙に暇がありません。

このような建築史的・社会史的価値の高い建物を50余年に渡り維持管理運営を行って来た貴社に対してあらためて敬意の念を表すると共に、今後とも変わらずこの価値を社会の中で持続できるよう、保存を切に願うものです。

なお、社団法人日本建築家協会関東甲信越支部、同保存問題委員会は、本郷館の保存活用について、出来る限りの協力をさせて頂く所存である事を申し添えます。

敬具

社団法人 日本建築家協会
The Japan Institute of Architects
関東・甲信越支部
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA館
Tel.03-3408-8291　Fax.03-3408-8294